



マイコンのI/Oプログラミングと
最新フライト・シミュレータを連携

リモート時代のリアルな操作環境を構築 Arduino/ラズパイで 作るコックピット

第6回

自作機器とフライト・シミュレータ連携のキー・アイテム…
Air Manager API

宮園 恒平

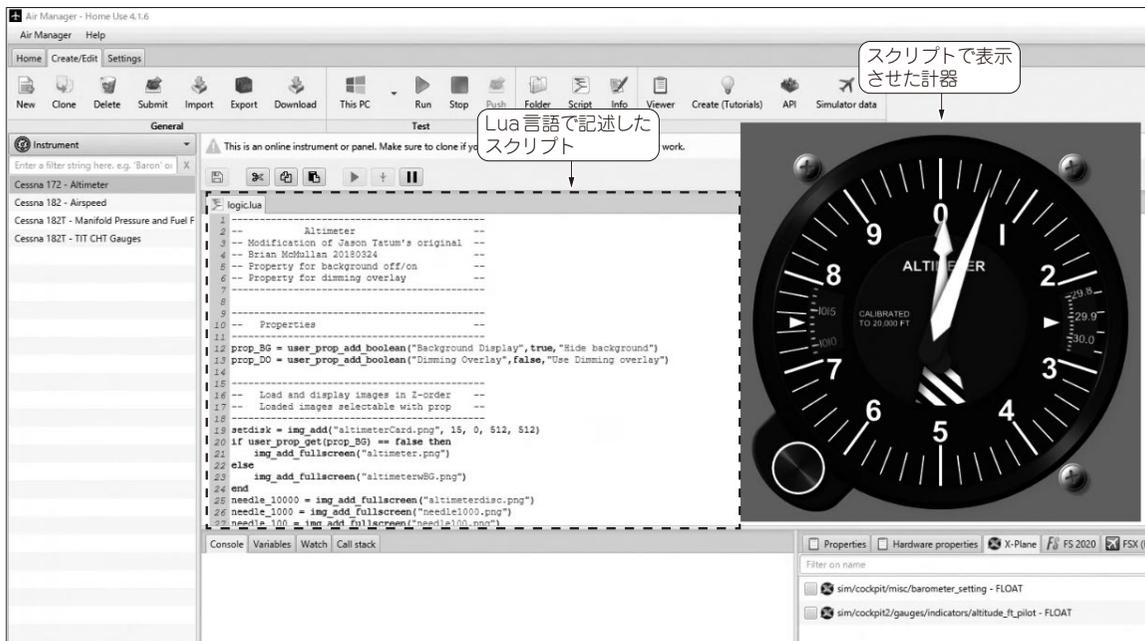


図1 Air Managerに用意されているサンプル計器を動かしている様子

Air Manager APIを用い、Lua言語で記述されたスクリプトを使って動作させている

本連載では、フライト・シミュレータ・ソフトウェアと連携して使える機器を自作する方法を紹介します。入出力デバイスには主にラズベリー・パイやArduinoを使います。応用すれば、ロボットやドローンをリモート操作する装置作りにも役立ちます。
(編集部)

自作機器連携や計器作りの 必須アイテム…Air Manager API

● すぐに自作コックピットに応用できる

今回はAir Managerを導入して、フライト・シミュレータ・ソフトウェアであるX-Plane内部のデータ(高度)を取り込んで高度計を表示させるサンプルの動作を確認しました(図1)。

今回から、Air Manager上で動作するスクリプトの

中身を解説します。スクリプトを記述するAPIにはArduinoやラズベリー・パイに接続されたデバイスの制御も含まれており、コックピットの自作に応用できます。

Air Managerのスクリプトは、Luaという言語で記述します。Lua言語は、なじみのない人も多いかもしれませんが、さほど難しい言語ではないので、プログラミングの経験があれば実際に使いながら覚えられると思います。

● 各種リファレンス

Air Manager APIのリファレンスはSim Innovations社のWikiにあります。対応ハードウェア一覧、X-Planeの内部データであるDatarefおよびX-Planeに指示を送るコマンドの一覧も同社のウェブ・ページで